県道神山鮎喰線の土木環境共生事業について

徳島県土木部　正会員　　○　鈴江則文
伊濱芳宏

1．はじめに

1)背景

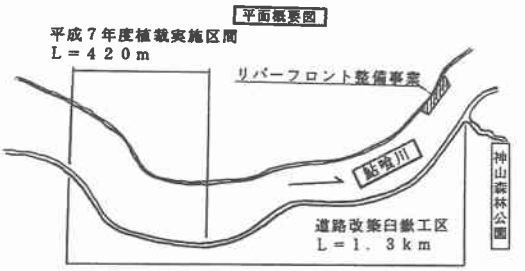
神山鮎喰線は県都徳島市と神山町を結ぶ主要地方道であり、鮎喰川と平行する路線である。この道路の名西郡神山町阿野字行者野から同字南馬喰草の区間で、平成元年度に臼嶽工区として道路改築事業に着手し、平成７年６月に供用されたが、この区間は地滑り指定地などの急峻な地形が連続しており、難工事が連続した区間で、道路工事によって自然環境にもかなりのダメージを与えた工区である。

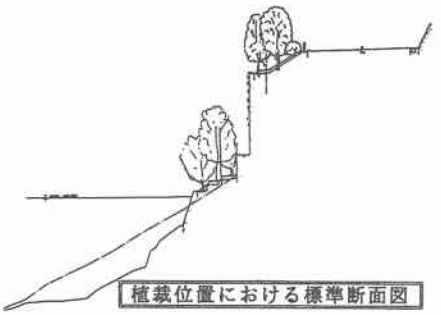
2)事業の概要

土木環境共生事業は「ゆとり」と「うるおい」のある豊かな環境づくり、自然と共生できる県土づくりを目的として、平成６年度に創設されたモデル事業である。

臼嶽工区においては、工事によって自然環境に与えたダメージを回復させるため、平成６年度から調査し、平成７年度には延長４２０メートルの区間について植栽を実施した。

位置図




植栽位置における標準断面図

植栽実施工区全景

2．共生の手法

臼嶽工区では、道路改築事業による切土・盛土やコンクリート擁壁が構築されたことで緑の環境を減少させたが、この工区で失われた緑を回復させることができるかどうかについての検討を行った結果、潜在自然植生法（横浜国立大学宮脇昭名誉教授提唱）によって擁壁上部及び擁壁下部盛土部分の植栽は可能であり、コンクリート擁壁の修景を兼ねて緑化ができるという結論が出された。その後、植栽する樹種や比率を具体的に決定するために、４日間１５箇所にわたって神山町の植生を調査するなどの作業を行った。

最終的に確定した樹種は、シイ、カシ、タブなどの高木樹種を中心に、四季折々に花を付ける花木をおり混ぜた４０種類となり、構成比は高木６０パーセント、中木３０パーセント、低木１０パーセントとなった。

3．植樹

「道路」「清流」「緑」が共生する「親水の森づくり」を目指して、一千人が一万本の苗木を植えた。植樹は神山町の商工会青年部・婦人部をはじめ、地元自治会、緑の少年隊、自主的に鮎喰川の清掃を行っているグループなど地域の方々に協力して頂いた。苗は実生を基本とした高さ５０センチメートル程度のポット苗を使用した。

植生調査状況

植樹祭

4．現在の状況

昨年の猛暑、渇水を乗り切り、冬の寒さにも耐えた木々が新芽を付けて、所々花木が花を付けて通行する人の目を楽しませている。

また植樹された木々が今後どのように成長していくかをフォローするため、３月９日に、擁壁上部に２箇所、下部に１箇所の調査区域を設けて、現在どの様な樹種がどの様な形で区域内に植えられているかを調査した。植樹した時点では高さ５０センチメートル位だった苗も、大きなものでは１２０センチメートルを越えて成長しているものもあり、敷藁でマルチングをしているために、雑草は全くと言っていいほど生えていなかった。今後、この区画内には人為的行為を加えることなく経年観測を続ける。

5．今後の方針

平成７年度からは臼嶽工区周辺で生物の現地調査を実施しており、今後はこの調査結果を受けて、緑の環境回復に加えて、生態環境を保全できるような対策の検討も行っていきたい。

6．おわりに

植栽を実施するにあたっては、当初地元から色々な意見があり、修景手法等についても緑化より青石を張った方が良いのではといった声も聞かれた。しかし、地元の方々に調査の段階から同行してもらったり、宮脇先生をはじめとした諸先生の講演会に参加してもらっている内に、段々とふるさとの森の大切さを理解して頂き、植樹はもちろんのこと、当日の式典では参加者の昼食を作ったり、受付やその他雑用に至るまで、大変な協力を頂いた。改めて諸氏に深く感謝するとともに、今後とも環境にやさしい土木行政を進めていけるように努力していきたい。